

平成22年9月定例会 原案可決・全会一致

議案第6号

米価の大暴落に歯止めをかけるための意見書を別紙のとおり提出するものとする。

平成22年9月14日

提 出 者

郡山市議会環境経済常任委員会委員長 七 海 喜 久 雄

米価の大暴落に歯止めをかけるための意見書

米価は9カ月連続で下落し、ついに6月の相対取引価格は史上最低まで落ち込んでいる。6月末在庫は316万トンにもふくれ上がる一方、豊作が予想される今年の作柄とも相まって、「米過剰」は一層、深刻化しようとしている。

超早場米の出荷がはじまったが、宮崎県のコシヒカリの生産者概算金は前年より2,000円も低い110,000円となり、深刻な事態となっている。

市中相場は新米で12,500円程度といわれ、売れ残っている2009年産米は、さらにそれ以下の価格にならざるを得ない。現状を放置すれば、米の需給の混乱も米価の下落もかつて経験したことのない異常事態になることは必至と思われる。

この数年来、生産費を大幅に下回る米価が続いている中で、生産者の努力は限界を超えており、さらなる米価の下落は、日本農業の大黒柱である稲作の存続を危うくするものである。それはまた、国民への主食の安定供給を困難にし、政府が進めている米戸別所得補償モデル事業さえも台なしにするものとするものとする。

米の需給を引き締めて価格を安定・回復させるためには、政府が年産にかかわらず、過剰米を40万トン程度、緊急に買い入れることが最も効果的であるとする。

よって、国においては、下記事項について実現されるよう、強く要望する。

記

- 1 年産にかかわらず40万トン程度の買い入れを緊急に行うこと。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成22年9月16日

郡山市議会